

『八国接壤図』と八太

飯田 良樹

その1 以前、私が住んでいる「八太」の地名に興味があり、「八太」が出てくる地図を図書館や資料館で探していた事がありました。

江戸時代には「八田」や「畑」と書かれた地図もあり比較をしました。

地図上の「八太」一覧表

図書館 博物館 資料館	資料名	八太の種類	年号
三重県立図書館	八国接壤図	八太	1834年 天保5年
三重県立図書館	国郡全国	八太	文政11年 天保8年
三重県立図書館 上野市立図書館	三國地志 国譜	八太	1761年 宝暦11年
三重県史(総説地誌編)	大日本輿地便覧 伊勢国図	八太	1834年 天保5年
三重県史(総説地誌編)	元禄絵図 伊勢国	八太	元禄
三重県史(総説地誌編) 斎宮歴史博物館	細見 伊勢国絵図	八田	1830年 文政13年
三重県史(総説地誌編)	伊勢国輿地全国	八太	1656年 明暦2年
三重県史(総説地誌編)	伊勢国掌覧之図	八田	1865年 慶応元年
三重県史(総説地誌編)	大日本沿海輿地全国	八太	1821年 文政4年
本居宣長記念館	日本分域御掌図	畑	1696年 元禄9年
一志郷史	伊勢一國全国	八太	寛政頃
松阪市役所郷土資料室	文政改正 伊勢国細見之図	八田	1861年 万延2年
松阪市役所郷土資料室	伊勢国図絵図	八太	江戸期 時代?
神宮農古館	諸國海陸安行之図	八太	江戸期 時代?
三重県立博物館	伊勢国図 no58	八太	江戸期 時代?
三重県博物館(旧藤田清砂所蔵)	津・安濃郡図	八太	江戸中期
三重県立博物館	伊勢国志後 no464	八太	1834年 天保5年
亀山市歴史資料館	伊勢国絵図 no66-0-24	八太	江戸期 時代?
亀山市歴史資料館	伊勢国絵図 no66-0-28	八太	江戸期 時代?
亀山市歴史資料館	伊勢国絵図 no66-0-36	八田	江戸期 時代?
人文社	日本輿地略図全国	畑	1778年 安永7年
人文社	官制吏員職内・東海・東山・北陸	八田	1876年 慶応3年

その中で三重県立図書館所蔵の「八国接壤図」が目にとまりました。箱入りで表に題簽「八国接壤図」が貼られていて、中には表紙と同じく「八国接壤図」の題簽が貼られた版画の地図が収まっていた。

写真撮りの許可を得ましたが、地図が大きく全体像と八太が摺られた部分のみの撮影となりました。

後で調べてみると、著者は稲垣定毅で伊勢商人「納所屋」として活躍した稲垣家(津市八町)の五代目で、天文(京都で橘南谿に学ぶ)・暦算・地理学(江戸で伊能忠敬より教わる)の学者でもありました。なお、定毅の地誌「伊勢志略」に附して刊行する予定もあったようですが未刊であったので、定毅の長男で分家に養子に入った之保が、藩儒 塩田重華に序文を依頼して、天保5(1834)年に刊行したとのことです。(平成28年展示図録「伊勢志摩」三重大学附属図書館より)

「八国接壤図」とは掲載した写真の地図を見て頂くとわかるように伊勢国絵図です。では八国とはどこでしょうか。北より三河・尾張・美濃・近江・伊賀・大和・紀伊・志摩の国に接する伊勢国の意味です。

今回、投稿したのはこの「八国接壤図」を入手出来たからです。三重県立図書館と同じく、箱入りで題簽も残っていましたが、ただ残念なことに箱と地図が虫食いでひどい状態になっていました。虫食いがひどいので、私でも買える金額であった訳だと思いましたが、それからが大変、掘げる度にポロポロと紙が剥がれ落ちてきました。そこで意を決して表具屋さんに裏打ちをしてもらうこととしましたが、親友の紹介で京都の一流表具屋さんに見積もりをしていただいたら、ビックリしたことに、この地図の買値の30倍の値段を表示されました。国宝級を修復されている会社なのだと思いますが、版画なのでお断りし、地元の表具屋さんに依頼したら、10分の1の表示価格でしたのでホッとて依頼しました。完成し掘げることも、持ち運びもできるようになったので「雲出川」へ投稿の運びとなりました。

入手し裏打ちした「八国接壤図」を見て頂くと



箱表 題簽



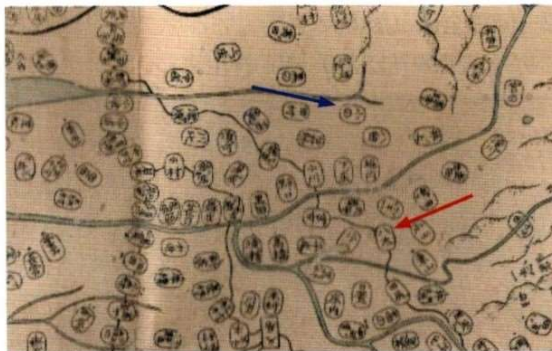
箱裏 天保12年辛丑春の裏書



地図表紙と題簽



「八国接壤圖」の地図



一志郡を拡大「八太」の記載 嬉野は「八田」

県立図書館所蔵の「八国接壤図」は、村々の所属藩ごとに色分けがされていましたが、入手した「八国接壤図」は色分けがされていないので、少なくとも2種類の「八国接壤図」が摺られたことがわかりました。

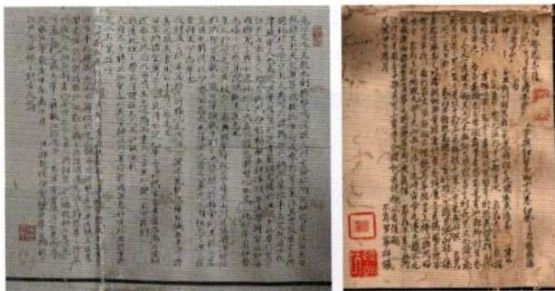
一志郡の拡大地図を見て頂くと津沖に赤い丸印と34度半右寄の文字が摺られて、この時代に緯度が入れているのは珍しいです。

ちなみにこの時代は地図の上が南（現在は北）です。

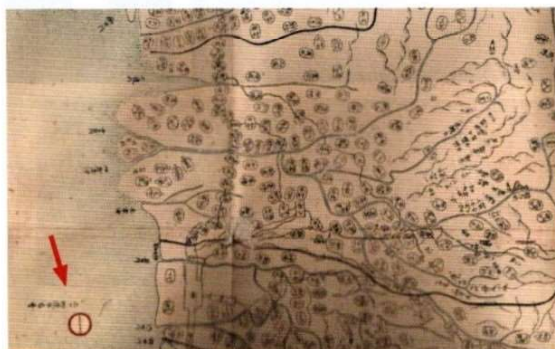
その2 いままで収集した伊勢の国絵図と「八太」の文字の関係を紹介いたします。

1 伊勢国興地全図

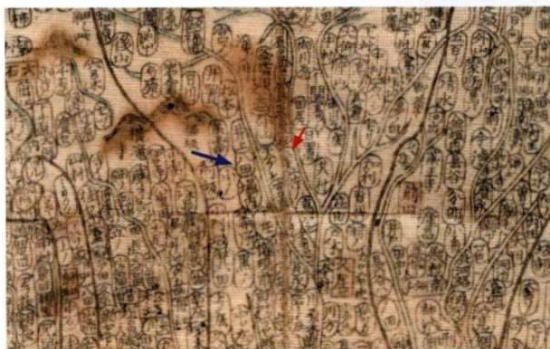
明暦2（1656）年の再編（年代不明）



左右に書かれた序文



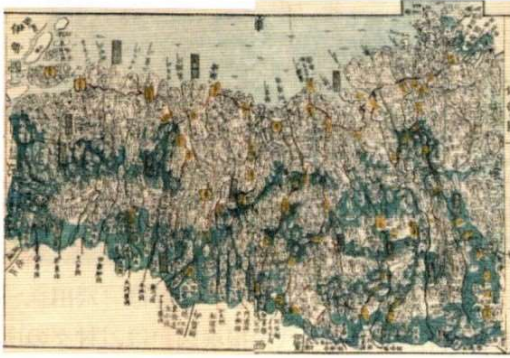
「八国接壤図」より一志郡を拡大



嬉野の「八田」と「八太」の記載があり

2 国郡全図 (版本)

天保8 (1838) 年 青生東谿



「八夕」と「八太」の記載があり

3 細見伊勢国絵圖

文政13 (1830) 年 山城屋佐兵衛・吉野屋仁兵衛・菊屋喜兵衛
版元2名や彩色の有無と3種類以上が現存
右上にお土産や特産が記載

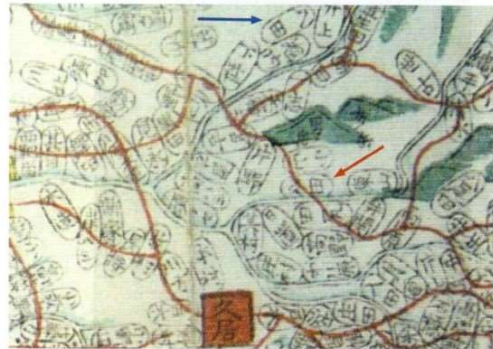


郡別に彩色
一志郡は白色

「伊勢国興地全図」と同様に「八田」となっていて嬉野の「八田」と紛らわしい

4 文久改正伊勢国細見之圖

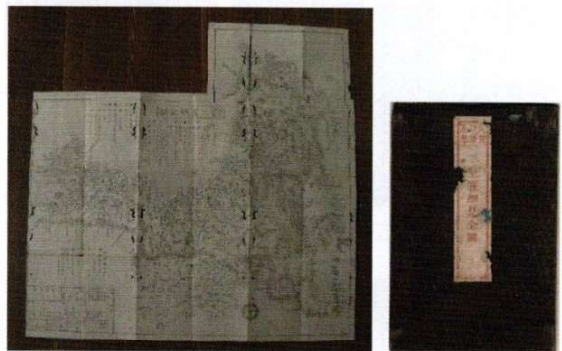
万延2 (1861) 年 村田佐十郎



地元の津藩校有造館の発行であるが嬉野の「八田」同様に「八太」が「八田」になっている
伊勢湾内の黄印は方位です。

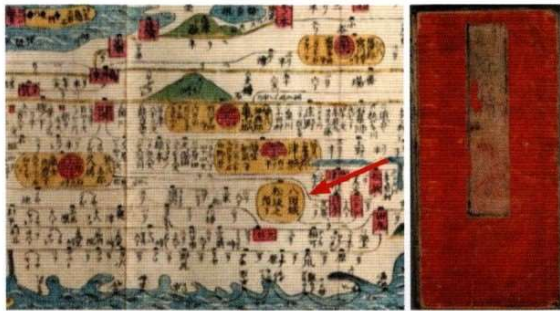
5 懐實銅鑄 三重縣全圖

明治9 (1876) 年 神先宗八

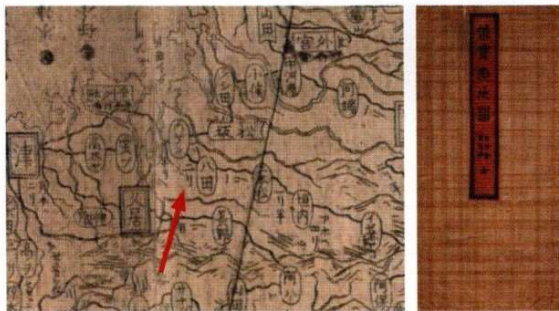


注意：地図の製作事情により、江戸期一般的な上が南は4、上が西の1と3、上が東は2と5です。

その4 以上の歴史的な事柄を頭に入れて「八太」周辺を道中地図でみてみると



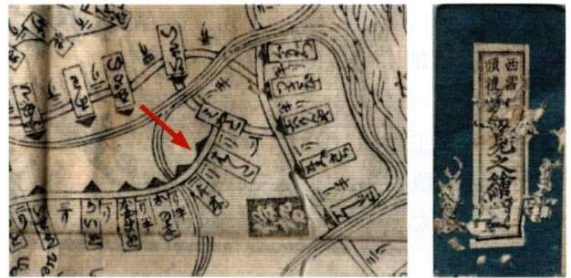
弘化3（1846）年に江戸の甘泉堂から発行された『大日本興地指掌全図』ですが、「八ヶヶ」から「二本松（二本木）」の初瀬街道にあり得ない「八田城松阪之預り」が掲載されています。かなり厚手の立派な折り本ですが、江戸の書林が発行したので間違いが多いです。



安政5（1858）年に京都の玄々堂から発行された『懐実興地図』で、上の『大日本興地指掌全図』との違いは「六ヶヶ」と正確ですが、やはり初瀬街道に「六ヶヶ」より二り「八田」とあり一り半に「二本松」と記載されています。



寛政4（1792）年に大阪の吉文字屋から発行された『道中獨案内図』です。上の2図とは違い平仮名と漢字表記で「六ヶヶ」から二りに「はた」と掲載され一りには「大の木川」となっています。



文政6（1823）年に奈良の大仏前えず屋庄八から発行された『西国巡礼 細見之絵図』。これは平仮名、カタカナ、漢字表記になっています。「六ヶヶ」から一りに「ミヤこ」があり、そこから一りに「はた」があります。また一り行くと「二本木」となり、雲出川と思える川を渡ると「おの木」と記載されています。これは「二本木」と「おの木」の順番を間違えて記載されたようです。



享保年間（1716～1736）に紀州粉川の大坂屋長三郎からの『西国 順禮道中圖』で、平仮名と漢字表記となっており、「六ヶヶ」から二りに「はた」。「はた」から二りに「大村（二本木）」と記載されていて、この部分では間違いは認められませんでした。

実例を挙げて比較をしましたが、現在とは違い、昔は聞いたそのままを当て字で記載されたものが多く、いろいろと収集していると「アレ？これは何処の地名かな」（例えば兵庫の「神戸」が「高部」、嬉野の「宮古」が「都」など）ということが多々有、面白いのでやめられません。皆さんも道中図や道中日記をみられるといろいろと発見することがありますよ。

追記

津市図書館に、平成8年稲垣家御子孫より古書・測量器具・地球儀など約3000点が寄贈されました。『稲垣文庫仮目録』で検索され資料請求を出されると、面白い資料が見せてもらえます。